



惠泉

題字・河井道
2025年度 第3号
2025年10月25日発行

毎年二月に行われる中学入試に向けて、年間を通じて惠泉の教育について外部の方にご説明する機会が増えています。その中で「惠泉が女子校である意義は何ですか」という質問を受けることがあります。その時は以下の五つの点でお話することが多いです。

まず一点目は、中学・高校という思春期は、自分が他者、特に異性からどのように見られるか気になる年頃です。女子校には、異性の目を気にせず自分の興味あることに打ち込む自由があります。一人ひとりの関心事や趣味についても認められますし、其々の世界を揶揄することもありません。これは互いを尊重し合う惠泉生の特長です。

二点目は、信和会やクラブ・課外活動など先輩との関わりを通じて、沢山の同性のロールモデルに出会えることです。自分の進路を考える際も、憧れの先輩の後ろ姿は大きな目標です。

三点目は、様々な個性の友人や先輩の中でこそ、自分自身の特性を見つけ易いとも言えます。これには惠泉の礼拝での「感話」が非常に重要な役割を担っています。多様な価値観や考えに触れることで、自分ならどうするか、自分の強みや弱みを含め、自身を客観視することができるようになります。それが、次第に自分の個性を尊重することにつながるのです。

四点目は、全ての学校活動を皆で分担するので、色々な役割を担う機会が多い点です。リーダーだけでなく、リーダーを支える役も重要です。女子だけで補完し合って集団を作り上げる経験を積むことになり、性別で役割分担をする発想自体が無いので、主体的に行動する姿勢が身に付きます。社会に出てからも様々な役割で誠実に責任を果たしている卒業生の活躍も耳にすることが多いです。惠泉生が大学のゼミなどで、自主的に司会を引き受けるエピソードも聞

を他者との比較や競争ではなく、互いの個性を認め、励まし、高め合う関係性の中で過ごす惠泉の日々は、その後の人生の歩み方を決定するとも言えるでしょう。この六年間で培われた友人関係は、生涯を支えるかけがえない絆となります。毎年の惠泉デーに世代を超えて同窓生が集うのも、この絆の所以です。

このように、キリスト教主義の女子校である惠泉女学園で学ぶ意義は、個人の人生を豊かにするだけでなく、これからの世界をより善いものに導く大きな力を秘めているように思うのです。現在も世界で戦争や紛争が続く、その終結が容易に進められずにいる時、自国第一主義が忍び寄る排他主義を増幅させようとする時、人々への無償の愛を貫かれたキリストの愛に倣う惠泉女学園の教育使命を、今後も守り続けていかねばならないと思うのです。

惠泉女学園で育つもの

中学・高等学校校長 本山 早苗

いたことがあります。

五点目は、惠泉が聖書の価値観に立つ女子校で、自己肯定感と共に他者への共感力を育てていることです。惠泉生は他者の考えに耳を傾け、自分の意見を述べていく優しさをもった人が多いです。他者への尊敬と共感力は、平和を希求する惠泉生にとって欠かせない力です。自身を粗末にする人は、他者を本当に大事にすることはできないからです。

中高の六年間は、自分らしさを探し求め、人格の土台を作る大変重要な時期です。この期間

躍できる世の中にしていくには、女子校で育つものに着目していく必要があると思います。

さらに、今年には戦後八〇年という節目の年で、唯一の被爆国である日本が、核武装ではない真の平和を実現していく役割を強く意識すべきでしょう。そのために、世界中で困難の中に置かれていく人々、弱さを抱える人々の視点に立つことが求められます。惠泉の六年間には、このような人々の境遇について知り、考え、行動する機会が備えられていきます。宗教部が紹介する毎月の献金先のこと。奉仕委

員会の活動を通して知る高齢者施設や子ども食堂での交流。その他平和学習や一日修養会などを通して、人権や共生社会について考える姿勢が育まれていくのです。

私は愛と希望と信仰をもって「友なき人の友となりつつ、沙漠に花を咲かしめなんと」する惠泉の校歌が大好きです。その勇ましさは、惠泉の女子教育で育つ確かなものと感じるからです。永遠の平和を希求する聖句「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」(イザヤ書二章四節)を心に刻み、高らかに校歌を歌い上げてまいります。「げに勝利の君の先立ち給う。大進軍に吾等もつづかん。」